



Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.38 2023. 8. 27 発行

「永遠のいのち」信じる？

ヨハネによる福音書3章16節

ごきげんよう!

牧師 梅津 裕美

わたしたちは「使徒信条」の学びを続けてきましたが、今回が締めくくりです。これまで、神さまが与えてくださる恵みの出来事ひとつひとつを取り上げて、それを「信じる、信じる…」と告白してきましたが、その告白の締めくくりでは「からだのよみがえり、とこしえのいのちを信じる」と告白します。

この告白は私たちの魂だけの「よみがえり」ではなく「からだのよみがえり」と言います。幽霊ではないということです。復活の体を持っておられたイエスさまと同じです。墓から復活したイエスさまのことを幽霊扱いしておびえた人々がいましたが、イエスさまは幽霊ではなく十字架の傷跡のあるお体をもって復活されたのです。それは、魂だけのよみがえりではない体をもった完全な復活でした。

かつて、あるおばあさまクリスチャンから質問されました。「牧師先生、私の夫は若くして亡くなりました。わたしはどうとうこんなおばあさんになるまで生きて、いつか復活して神の国で夫と再会した時に、若い夫とシワシワおばあさんのわたしは一体どうなっちゃうんでしょうかねえ？ もう心配で、心配で…」。ちょっとオモシロイ疑問だと思いましたが、わたしたちはつい想像たくましく、いろいろ想ってしまいますが…聖書は復活の身体がどんな見かけなのかは語っていません。ただ、罪赦された身体として、朽ちることのない=死を滅ぼした身体と語っています。聖書が語る「永遠」は、罪の体が永遠に続くという怖いことではなく、罪を滅ぼした恵みの永遠です。

「使徒信条」の締めくくりは、罪の赦しが、完全な復活の体、そして永遠の生命をもたらすことを信じる告白です。イエスさまを救い主と信じ「使徒信条」を共に告白する教会の民は、既に、永遠の命の約束の中に生かされている希望の民なのです。



堀内長老からのメッセージ

齋藤長老のおとうさま、そして10月に受洗される息子さんのおじいさまであられる小島一郎牧師、今年の3月に天に召されましたが、その小島牧師が1980年に自宅で礼拝を始めたのが港南希望教会です。現在教会は横浜市港南区の住宅地にありますが、すぐ近くに舞岡公園(戸塚区)があります。昔ながらの自然を生かした公園です。この公園の開設のために動いた一人の女性が星野富弘さんの詩「まむし草の実」に出会います。「ただひとつのために生き ただひとつのために 枯れゆく 草よ そんなふうにも生きても おまえは誰も 傷つけなかった」。この詩に心を動かされた女性の行動は、市民の共感を呼び、公園の開園につながりました。星野富弘さんの詩画の世界をそのまま表しているような、自然ゆたかな舞岡公園、公園には星野さんの了承を得て、この詩を刻んだ石碑も建てられました。多くの人々の心を動かす星野富弘さんの詩、荻窪清水教会でも11月初めに星野さんの作品を紹介する「心やすらぐアート展」が開かれます。ぜひ詩画を味わってください。(引用:偕成社『鈴の鳴る道』、2019年戸塚・星野富弘花の詩画展ちらし)

